

「昭和100年」と天皇制

百武三郎侍従長の日記や、田島道治宮内庁長官の「拝謁記」など、昭和天皇の側近が残した記録のうち、ここ10年の間に新たに公開された資料の内容を紹介。歴史資料を読み解くおもしろさや、戦前からの歴史の連続性で現代をとらえ直すことの意義について考えます。歴史が新資料によってアップデートされ続けていくこと、いわば「歴史はニュース」であることを実感いただければと思います。

講師：北野隆一（朝日新聞社会部記者）

1967年岐阜県生まれ。1990年朝日新聞入社。新潟、延岡、北九州、熊本に赴任、東京では警視庁や宮内庁を取材し、社会部デスクを経験。2014～25年に編集委員。2001～02年に米ハーバード大学日米プログラム客員研究員。2020年の夕刊連載「ヘイトスピーチを考える」でメディア・アンビシャス賞活字部門大賞、21年のアイリーン・美緒子・スミスさんの水俣病インタビューで同賞活字部門アンビシャス賞を受賞。著書に『プレイバック「東大紛争」』、共著書に『祈りの旅 天皇皇后、被災地への想い』など。



公開授業聴講方法

◎ 学外のかたは下記のいずれかの方法で聴講をお申込みください。先着40名様。

☆ 右記のQRコードから申込みフォームに入力。

☆ 往復葉書の往信部分に、氏名・住所・電話番号・メールアドレス・参加人数（2名まで）を記して、〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 北星学園大学教育支援課「メディアと社会」公開授業係まで送付。

6月29日〆切（必着）。受講の可否等の詳細は返信メールまたは返信葉書にて連絡します。

◎ 本学の学生・教職員は自由にご参加ください。



北星学園大学では、2007年度より、大学共通科目として「メディアと社会」（朝日新聞連携科目）を開講しており、2023年度からの新カリキュラムでは経済学科専門科目として継続しています。朝日新聞社の道内外の記者やHTB（北海道テレビ放送）のかたがたにオムニバスで講義いただいている「メディアと社会」では、全14回のうちの1回を公開授業としており、今年度は北野隆一さんご出講の回を公開授業といたします。ぜひ、ご聴講ください。

※ 会場がA305教室に変更になっております。

7/11(金)
13:00～14:40
北星学園大学 A館
A305教室

（東西線大谷地駅 徒歩5分）